

二〇一三年九月一七日(参加者二名)

澄む池の向ふ岸より友の声	せ	い	じ
くわりんの実木偶のごとくに個性あり	"	"	"
鹿垣の戸に鍵はなし深山道	"	"	"
起ち直る河原の芒台風禍	"	"	"
台風一過吟行日和を賜りぬ	百	合	
奈落なる川音もまた秋の声	"	"	"
たもとほる薬草園の風は秋	"	"	"
行厨のベンチに群るる赤蜻蛉	"	"	"
磊磊の瀬を過ぎてより水澄める	宏	虎	
左見右見薬草園の花とりどり	"	"	"
一と叢のパンパスグラス秋日影	ひ	か	り
水の秋なれや瀬音も遅しき	"	"	"
園に舞ふ貴婦人のごと黒揚羽	ぼ	ん	こ
欄干を虜にしたる蔦紅葉	"	"	"
くわりんの実ごと転びたる根方かな	わ	か	ば
小流れを辿り秋草数へけり	"	"	"
里の山暮れて始まる村芝居	よ	し	子
山並の斯くもさやけし秋の晴	"	"	"

嵐峽を泥の海とす台風禍	は	く	子
つくつくし鳴きつぐ深山道辿る	"	"	"
さはやかや植木鋏のリズムまた	有	香	
秋高し水あふれしむ天使像	満	天	
王羲之の達筆の書や館涼し	"	"	"
四阿に憩へば四方の昼の虫	"	"	"

定例会みのある選

二〇一三年九月一七日(参加者二名)